



# まほうの産着（うぶぎ）



昔は現在の様な医療が無く、無事出産し、育つ事が大変難しい事でございました。人々は身分の上下無く、生まれ落ちた赤ちゃんを白い布で包む事で、赤ちゃんの無事成長を願う習慣がありました。

これは、その習慣の始まりのお話。

その昔、大和の国のお姫様は赤ちゃんを授かったのですが、赤ちゃんを無事に誕生させる事ができるか、たいそう心配で不安な日々を過ごしております。



ある日のこと、お姫様は家来から、赤ちゃんが無事生まれ丈夫に育つことのできる「まほうの産着」があることを知らされました。さっそく「まほうの産着」を仕立てているおじいさんをお城に呼んで、話を聞いてみることにしました。

「おじいさん、その産着にはどのようなまほうの力があるのですか？」

おじいさんは、「二三度瞬きをしてからゆっくりと答えました。

「お姫様、まほうの力は五つあるのです」

まず一つ目は「麻の葉の力」でございます。

この産着の生地には、「麻の葉」の地紋が織り込まれております。

「麻の木はしっかりと地面に根を張り丈夫に育つ」と言われており、それゆえ麻の木の様に丈夫に育つのでございます。

二つ目は「背守り紋の力」でございます。

背中では靈魂の守りの要（かなめ）で、大人の着物は背縫いによって身を守ると信じられています。が子供の着物には背縫いがありません。

この産着は、背後から魔物（悪事）が入り込まないようにと、背縫いの代わりに「縫い糸印（背守り紋）」を付けております。





なるのでございます。

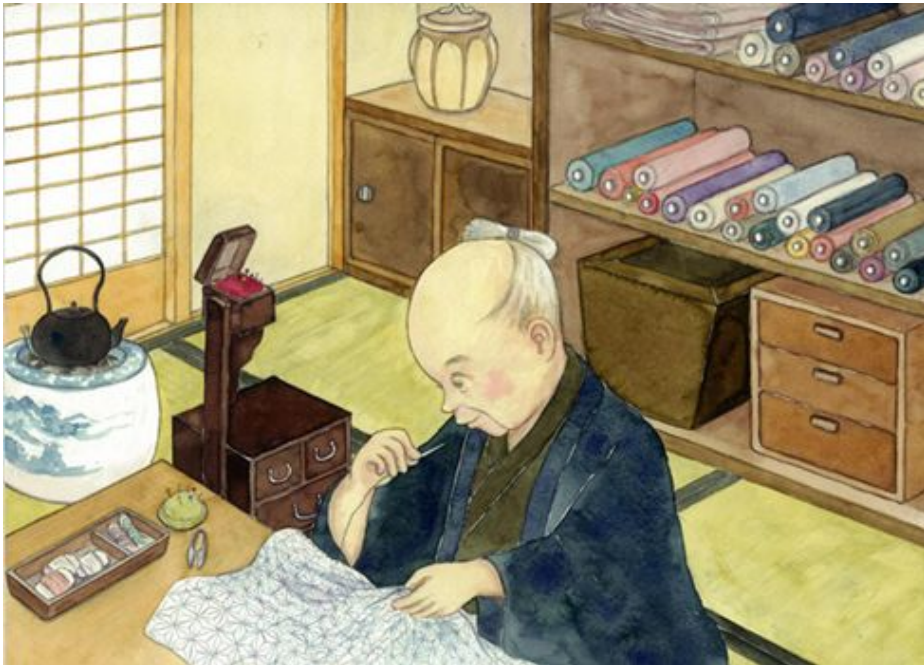
三つ目は「躰（しつけ）の力」でございます。  
この産着には、赤ちゃんが「真直ぐ素直なこころの持ち主」になる  
様にと、「躰（しつけ）糸」で躰縫いをしてございます。  
四つ目は「袖（そで）の力」でございます。  
「袖触れ合つても多生の縁」と言いまして、この産着の袖に手を通し  
た赤ちゃんは、多くの素晴らしい人々と出会えるのでございます。  
五つ目は「衿（えり）の力」でございます。  
背筋を伸ばし「衿」を正すと「姿勢が良くしっかりとした人間」に





「さっそく作っていただけませんか！」  
と懇願しました。

おじいさんが「まほうの産着」の説明をし終わると、  
お姫様は紅潮させたお顔で、  
「私は生まれ来る子供に、おじいさんの仕立てた産着を  
是非とも着せたいと思います！」



おじいさんは、三日三晩、一針一針に「無事誕生・成長の願い」を込めて、産着を縫い上げました。

産着を受け取ったお姫様は、たいそうお喜びになり、出産への不安も消え、心穏やかになりました。

数カ月後、晴天の大安の日に、無事男の子が誕生しました。

お姫様は、さっそくおじいさんが縫い上げた産着を、赤ちゃんに着せて、御殿様を始め城中の人達とお祝いをしました。



「まほうの産着」を着て育った赤ちゃんは、  
「麻の葉の力」で、丈夫な体に育ち、  
「背守り紋の力」で、災難・悪事から逃れる事ができ、  
「躰の力」で、駄々をこねず、わがママを言わず、  
「袖の力」で、多くの、素晴らしい家来と勤勉な民に恵まれ、  
「衿の力」で、背筋が伸び、正直でまじめにお育ちになり、  
やがて、  
「民のことを第一に考えられる慈悲深い若殿様」に成長しました。





これにたいそう喜ばれたお姫様は、  
おじいさんへのお礼として、麻の葉が織り込まれた絹の生地を  
沢山贈りました。  
ご褒美をいただいたおじいさんは、大和の国の数多くの妊婦さん達  
のために「まほうの産着」を仕立ててあげようと、それから毎日毎  
日運針に精を出しました。  
「まほうの産着」は次の世代へと伝えられ、大和の国はいつまでも  
いつまでも栄えました！

おしまい





作 内田勝三（産着の真和）  
絵 石田享子（童画家）



shinwa.

Copyright (C)2015 shinwa inc. All rights reserved.



Copyright (C)2015 shinwa inc. All rights reserved.